









### イベリコ豚の特徴

原種：スペインのイベリア（黒豚）  
特徴：猪に近く真っ黒の身体と蹄  
現在使用されているイベリコ豚も自然の状態に近い環境で育てられている

### 金華豚の特徴

原産地：中国浙江省（セッコウショウ）金華市  
金華豚の原種：頭と臀部が黒色をしている小型の豚

特徴：  
○金華豚は余計な脂肪がつかないように飼養されているため、体はあまり大きくなく中型から小型の大きさ  
○顔にはしわが多くクシャっとした感じで、垂れた耳とお腹が印象的な体型

## 4. 馬における育種体制

新たな家畜改良増殖目標（平成37年度目標、平成27年3月策定）のポイント

- 農用馬については、生産率の向上を図るため、優良種雄馬及び繁殖雌馬の維持・確保、人工授精の普及を推進
- 軽種馬については、国際競争力をもつ競走能力の高い優良種雄馬及び繁殖雌馬の確保
- 乗用馬については、強健性に優れ、温順で乗りやすい馬の生産体制の整備
- 福祉・教育・観光目的等の多様な利活用に関する情報共有と利用目的ごとの需要に即した生産・供給の推進
- 家畜改良センターで種畜・人工授精用精液の供給、研修等による知識・技術の普及、技術者養成

### 馬の改良増殖目標 — 10年後を目指して、魅力ある馬づくりを進めます —

国内での優れた馬づくり

- 能力向上を図り、その安定供給を進めます。
- 馬のふれあいを促した、福祉、教育、観光などのニーズに応える馬づくりを進めます。

データに基づく魅力ある馬の生産を進めます。

客観的評価による能力の高い馬づくり  
血統の多様性や実用性も維持・確保しつつ、内産馬の確保拡大に向けて、客観的なデータを活用した生産などの改良や飼育等への活用を図ります。

【農用馬・乗用馬】  
能力評価・遺伝情報、繁殖成績等

【競走馬】  
運動能力等のデータ収集

遺伝的データや飼育データの活用

優れた遺伝をもった種畜の繁殖

特色を活かした福祉・教育

血統の多様性に配慮しつつ、多様な利活用を進めます。

馬は、農用馬（産種馬）、軽種馬、乗用馬として、それぞれの用途に応じて利用されています。今後も、血統の多様性に配慮しつつ、様々なニーズに応じた馬の生産・供給の拡大を図っていきます。

日本産馬の在産馬は、4品種で1,768頭が飼育されています（平成24年度末）。その遺伝的・体型は多岐にわたります。

【農用馬の目標】  
● 繁殖能力の向上  
● 繁殖雌馬年齢の若年化  
25% → 45%  
● 生産率の向上  
63% → 85%

【軽種馬の目標】  
● 国際的に通用するスピードと持久力に優れた種雄馬の選抜育成  
● 強健性や運動能力などに關するデータ収集とその活用の推進

【乗用馬の目標】  
● 強健性の向上と温順で乗りやすい馬づくり  
● 持久力、持久力に優れた種雄馬づくり  
● 乗用馬などの飼育方法の普及とその実施

## 5. めん・山羊における育種体制

新たな家畜改良増殖目標（平成37年度目標、平成27年3月策定）のポイント

- 山羊：泌乳能力の向上を図るための優良な種畜の確保と生産・利用体制の整備
- めん羊：繁殖能力や産肉能力の向上を図るための優良な種畜の確保と利用体制の整備
- 畜産物利用を促進するとともに、耕作放棄地の有効活用・景観保全、ふれあい等多様な利用に関する情報共有と供給体制づくりの推進
- 家畜改良センターで飼養管理や繁殖技術の知識・技術の普及、技術支援

### めん羊・山羊の改良増殖目標 — 10年後を目指して、地域のニーズに応えるめん羊・山羊づくりを進めます —

地域におしをえるめん羊・山羊づくり

- 特徴的な栄養成分や機能性を持った羊乳や山羊乳を安定供給できる能力向上を進めます。
- めん羊・山羊とのふれあいや教育などへの活用を進めます。

フレッシュな国産の羊肉・山羊乳を供給します。

能力の高いめん羊・山羊づくり

生産現場で「めん羊」として活用（3室肉用）のめん羊や、産乳能力の高い山羊の改良も進め、畜産の発展に貢献していきます。

能力評価の活用

遺伝的データや飼育データの活用

優れた遺伝をもった種畜の繁殖

特色を活かした福祉・教育

めん羊・山羊は、畜産物利用した地域特産品づくりをはじめ、その高い動物福祉性を活かした除害用や警備用、小型で扱いやすい特性を活かしたふれあいや「動物福祉」への活用など、多様な利用が行われています。今後も、血統の多様性を活かした生産性の高いめん羊・山羊の生産・供給の拡大を図っていきます。

めん羊・山羊のふれあいや教育などの利活用は、日本全国に広まっており、畜産への理解醸成にも役立っています。また、畜産での就業にも促されています。

【めん羊の目標】  
● 子羊の90日齢時1頭当り体重の増加  
雄 23kg → 33kg 雌 20kg → 29kg  
● 産肉率の向上  
1頭当り産肉量 1.4頭 → 1.5頭

【山羊の目標】  
● 1頭当りの年産乳量の向上  
4,600kg → 6,000kg  
● 受胎率の向上

## 6. 鶏における育種体制



鶏も豚と同じく、**系統造成と系統間交雑**によりコマース用鶏は生産されている。



鶏の場合は**4元交雑**が比較的多い。

**鶏の改良増殖目標** - 10年後を目指して、国産品種の強みを活かした鶏づくりを進めます -

**「農場から食卓まで」を支える鶏づくり**

- 消費者に身近な鶏肉。鶏卵を安定供給できる能力向上を進めます。
- 多様な消費者ニーズに応える、ひと味違う特色ある「鶏づくり」を進めます。
- 鶏が地方を産する飼養・衛生管理の普及や地域の飼料産家の利用促進を図ります。

**ひと味違う特色ある鶏肉・鶏卵を供給します。**

**地鶏等の特色ある鶏肉づくり**

- 国産品種を軸に、特色から品質を保持しつつ、消費者に合理的価格で提供できる品種改良や繁殖性能などの改良を進めます。生産・流通を確した飼料改良の改良を進めます。

**品質の高い卵・特色ある卵づくり**

- 鶏の丈夫な卵をつけます
- 卵の丈夫な卵をつけます

**毎日の食卓を支えるため、鶏の能力を高めます。**

鶏肉、鶏卵は食卓に欠かせない身近な食品です。鶏の高い生産能力と繁殖能力の強みを活かして、今後も、鶏の能力を高め、効率的な生産を進めていきます。

- 鶏肉の1人当たり年間消費量は約12kgと食肉の中でNo.1、鶏皮の自給率は66%です。
- 鶏卵の1人当たり年間消費量は約17kg。鶏が卵は世界でも多数の鶏卵消費国です。鶏皮の自給率は95%です。

鶏の能力を十分に発揮させるため、飼料設計の改善、空室の快適性に配慮した飼養管理（Well-being）、農場の衛生管理等の取組が重要です。

**【肉用鶏の目標】**

- 飼料要求率の向上
- 鶏を1kg増やすのに必要な飼料量は2.0kgから1.9kgに向上
- 生産能力（産卵性）の向上
- 産卵時（49日）の体重 2.870g → 2.900g
- 産卵率の向上 → 生まれてから出荷までの生産率 95% → 98%

**【卵用鶏の目標】**

- 高い飼料要求率の維持
- 卵1kgの生産に必要な飼料量は2.0kgで維持
- 産卵率の維持向上
- 1日に卵を産む割合 87.9% → 88%
- 生産率の向上

8

## 7. 在来豚と在来鶏



中小の企業体や地方の単協、地域の篤農家のレベルでは、大規模養豚や大規模養鶏に対抗する手段として、在来豚や在来鶏の利用による差別化の動きがある。



比内鶏に代表される地鶏や、烏骨鶏のような特殊鶏、梅山豚や金華豚などの中国在来豚の利用が試みられている。



これらの品種は生産性が落ちるため、コマース用品種などとの交雑種がおもに利用されているが、生産が一定しない、あるいは販路などの問題点をかかえている。